（第一回）

2023（令和５）年度入学試験問題

国　語

（試験時間：50分）

《注　　意》

(1)　問題は 一 ～ 三 まであります。
(2)　解答はすべて解答用紙に記入してください。
(3)　受験番号、氏名を忘れずに記入してください。
(4)　解答に際して、句読点・符号などが含まれる場合には１字分として数えます。

城西大学附属
城　西　高　等　学　校

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「リッチな気分」というのがキャッチフレーズに使われることがある。あまり行くことのない高級レストランで御馳走を食べる。[A] 平素は身につけないブランド商品などを買う。それによって「リッチな気分」になるというコマーシャルに惹かれる。確かにリッチな気分になることもある。しかし、a見栄を張り過ぎたと思うときなど、[B] 後悔したりする。リッチどころではない。豊かさを感じるのは、自分の平素の限界をこえる、そのこえ方が微妙である。ある線をこえると、それは豊かな感じがしない。と言って、ある線よりも低いときも、もちろん豊かとは言えない。①「豊かな実感」を得るのは、なかなか難しいのだ。

要するに、自分の期待値をどこに置くかが重要である。期待値の高すぎる人は、いつまで経っても、いろいろと物を手に入れながら、不満感につきまとわれる。あまりにも多くの物が手に入る可能性がある現在において、人間はどこに自分の欲望の期待値を設定するのか、あるいは欲望に対する抑制力を行使するのだろうか。

階級とか身分とか言うものは、欲望に対する抑制力をもつ。日本的に言えば「分相応」のところに、欲望の限界点を設定した人は、「足ることを知る」生活をすることだろう。身分などという古くさいこと、と怒る人もあろう。[C]、人間は幸福に生きるための装置としていろいろなものを持っており、身分などもそのひとつだったろう。[D]、常にすべてよい考えや制度などはないので、身分を不自由に感じる人にとっては、これは不幸のb[ゲンセン]になるだろう。

階級とか身分などと制度的なことを言わなくとも、欧米においてさえ、最初[※1]に述べたように「年齢・地位・収入・性別・慣習」によって、欲望に対する何らかの抑制がはたらいたと言う。これは、人間が「幸福」に生きるための古来からの知恵であろう。②欲望に不文律的な歯止めがかかって、期待値を法外に高くすることを避けるのである。

しかし、現代の日本ではこれらの仕掛けは急速に衰退しつつある。人間は「何でも手に入れる」ことができるし、「何にでもなれる」のである。こうなると競争が起こる。③アメリカでは、競争原理が高く評価されている。おそらく、「正しい者は勝つ」という法則が、いつの間にか「勝つ者は正しい」に読み代えられたのであろう。この競争は能力のある者をどんどん伸ばす長所をもつと共に、能力のない者にはあまりにも厳しい結果をもたらす。アメリカの犯罪率の高さがそれをc[ハンエイ]している。

要するに、自由で豊かな社会というのは、人間に、転落したり破滅したりするチャンスも豊かに与えるものなのだ。身分、階級とまでいかぬにしても、他に対する配慮などによって、人間は豊かな転落の可能性から身を守ってきた。しかし、あくまでも自由を追求して、現在のような状況になると、

個人の責任や判断力というものが、極めて大切となってくる。自分で自分を守ることを、もっと真剣に考えねばならない。

《　中　略　》

豊かさを考える大切な要因として「④個性」があると私は考えている。他人から見て少し位、偏奇[※2]していると思われても、個性に合った欲望の充足をしている人は、それが他との比較においての大小などと関係なく、豊かな実感を持つのではなかろうか。個性というものが図[※3]に示した欲望の平面に深さを与えて立体化するように思われる。

もっとも、「個性」というのがそもそもわかりにくい。人間にはそれぞれ与えられた「個性」というものが具体的にあり、それを見出して伸ばしていくと考えるよりは、何らかの傾向性はあるとしても、それを生きた形にしていくのは、その人の人生の過程による、と考える方が妥当なように思う。つまり、個性は本人の潜在的傾向、意識的努力、環境の条件などすべてによって時間をかけて形づくられるもので、死ぬまで変化し続けるものと考える。生きていく過程のなかで、いろいろな欲望が生じてくる。その欲望にどう対処するかも、その本人の個性とのかかわりということになる。

個性というとき、ヨーロッパ近代に生まれた個人主義の考えを[d]キソにするとわかりやすい。しかし、その背後にある一神教、そこから生み出された自然科学などとの関連から、各人が「唯一の真理」を生きようとするので、⑤個人主義と言いながら、生き方が同質化する危険性をもっているようにも思う。同調性の高いアメリカはそれの悪い見本と考えていいのではないだろうか。

こんなふうに考えはじめると、個性ということもわからなくなってくるが、それを見出すためにこそ生きているのだ、と言えるわけで、この未知の存在を欲望と消費の問題の裏打ちとして用いると、面白くなると私は思っている。究極的にはわからぬとしても、ある程度自分の個性とか生き方とかが見えてくると、欲望も消費も楽しみながら、あまりイライラすることもなくなるように思う。

豊かな社会は、転落や破滅の可能性も豊かになったのだが、人間がそのような社会を選んだのだから仕方がない。自由を求めてきた分だけ［　G　］のである。したがって、欲望も消費も[e]ケッコウであるが、それに伴う個人の努力がいかに大きいかを自覚することである。そうすることによって、豊かな消費を楽しめると思う。

（河合隼雄　『日本文化のゆくえ』）

※1　最初に述べたように…筆者はこの本文の前章で「外国の女性たちには、年齢・地位・収入・性別・慣習を無視した消費行動は見られない」という内容の引用文を紹介している。

※2　偏奇…普通一般とは異なっていること。一風変わっていること。

※3　図…筆者がこの本文の前章で示している図のこと。

問一　〰〰部a～eのカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二　空欄 A ～ D にあてはまる言葉としてふさわしいものを、次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　しかし　イ　あるいは　ウ　もちろん　エ　なぜなら　オ　むしろ

問三　――部①「『豊かな実感』を得るのは、なかなか難しい」とあるが、なぜか。本文中の言葉を使って五十字以上、六十字以内で説明しなさい。

問四　――部②「欲望に不文律的な歯止めがかかって、期待値を法外に高くすることを避ける」とあるが、どういうことか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　身分や階級による縛りによって欲望が抑えられ、余計な不満感につきまとわれることがなくなるということ。

イ　欲望に対して明文化されていない規制がかかり、平素の限界をこえた豊かな生活をおくることができるということ。

ウ　暗黙のうちに守られている決まりによって欲望が抑制され、過剰に求めることをしなくてすむということ。

エ　欲望に対して法律で定められている身分的な制限がかかり、「足ることを知る」生活をおくることができるということ。

問五　――部③「アメリカでは、競争原理が高く評価されている」とあるが、筆者はその理由をどのように考えているか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　アメリカでは、競争することで様々な工夫が生まれ、社会全体が豊かになったから。

イ　アメリカでは、いつの間にか競争に勝った者が正しいとみなされるようになったから。

ウ　アメリカでは、正しい者は競争において必ず認められ、評価されると考えられているから。

エ　アメリカでは、競争によって能力のある者はどんどん力を伸ばすことができるから。

問六　――部④「個性」について後の問いに答えなさい。

(i)　筆者の考える「個性」とはどのようなものか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　人間にはそれぞれ生まれもった「個性」というものが具体的にあり、それを見出して伸ばしていくことで充実した人生を送ることができる。

イ　人の個性とは、生まれつき何らかの傾向性があるわけではなく、その人の人生の過程によってできあがるものに過ぎない。

ウ　個性は、もとからある傾向だけでなく様々な要素によって時間をかけて形づくられ、一生をかけて変化し続けるものである。

エ　人が生きていく過程のなかで生じるいろいろな欲望にどう対処するかを決めるのが、人それぞれが持つ個性の果たす役割である。

(ii)　「個性」を指す別の表現を本文から五字で抜き出して答えなさい。

問七　――部⑤「個人主義と言いながら、生き方が同質化する危険性をもっている」とあるが、なぜか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ヨーロッパでは多様性を重んじる教育が行われているから。

イ　ヨーロッパで生まれた個人主義は一神教を背景にもつから。

ウ　同じ人間である以上ある程度同じ部分があるのは仕方ないから。

エ　階級がなくなったことで、人々の生活が均質化したから。

問八　空欄 G にあてはまる言葉としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「個性」がわからなくなった　　イ　豊かな実感を持つようになった

ウ　抑制力を行使する必要が出てきた　　エ　個人の責任が重くなった

問九　筆者の考えと合うものには○、合わないものには×と答えなさい。ただし、すべて同じ記号で答えた場合は採点対象としない。

A　「何でも手に入れる」ことができる現代では、誰もがいろいろと物を手に入れながら、不満感につきまとわれている。

B　自分に見合った欲望の限界点を設定し、豊かな消費生活をおくるために、身分や階級制度は現代でも必要である。

C　個性というものはとらえがたく未知の部分も多いが、欲望や消費の問題を考える際に重要である。

D　欲望や消費行動について否定はしないが、それによって人々の心が貧しくなっていくことについて自覚するべきである。

E　今後も人々が自由を求めたぶんだけ、社会が豊かになり、豊かな消費もできるようになるだろう。

二

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「雄吾」は中学一年生の二学期から不登校になった。両親は共働きで忙しかったため、家の中を一人でも過ごしやすいよう快適に整えてくれたが、「雄吾」は逆に家から遠ざかり、毎日公園で時間をつぶすようになる。ある日、「源ジイ」と出会い、何となく仕事を手伝うようになった「雄吾」は、「源ジイ」の人柄にあたたかさを感じて少しずつ不登校の理由や自身の気持ちなどを打ち明けてゆく。

その日は朝から源ジイの顔色が悪かった。カゼ気味でどうも調子がでないという。雄吾は老人を運転に専念させ、代わりに自分がこまめに回収に動いた。不思議に調子のいい日で、午前中だけで荷台がいっぱいになってしまった。源ジイはいった。

「身体もだるいし、①今日はこれまでだな」

そのとき走っていたのは、市谷山伏町だった。小学校の横の立派な屋敷のまえにビデオデッキと小型テレビがおいてある。若い男が手をあげていた。軽トラがくるのを確認すると屋敷にはいってしまう。

「ついてるときは、こんなもんだな。あいつを最後に積んで今日は手仕舞いだ。こづかいやるから、雄吾は映画でも観にいきな」

飛ぶように助手席をおりると雄吾はデッキをもちあげて、軽トラックにもどろうとした。クラクションが鳴ったのはそのときである。めったにきくことのない軽トラのかん高い警笛だった。一瞬ではやまずに、ずっと鳴り続けている。

なんだろう、このビデオデッキは必要のない品物なのかな。雄吾は足早に荷台にデッキを積んで、運転席にまわった。そのあいだもやむことなくクラクションは鳴り響いている。通行人もA怪訝な顔で錆の浮いた八坂サービスのトラックを見つめていた。

運転席をのぞくと源ジイがハンドルに頭を垂れていた。額がクラクションを押しているのだ。意識はないようだった。雄吾は老人の肩をつかんで、頭をハンドルからあげた。静かになった住宅街に、今度は雄吾の声が響いた。

「源ジイ、源ジイ、どうしたの」

老人は目を開けなかった。意識がもどることもなかった。反応はない。倒れたときにぶつけたのだろうか、鼻の穴から血がひと筋流れているだけだった。雄吾は通行人の誰かれなく叫んでいた。

「携帯をもっている人、救急車を呼んでください。お願いします」

十分後には大久保通りを近づいてくるサイレンがきこえた。※1ドップラー効果は近づくほど周波数が高くなるのだっけ。②生まれてから一番長い十分間をすごしたのに、頭のなかにつまらない雑学が浮

かぶ。人の心というのはおかしなものだ。

《　中　略　》

「あの、さっきここにきた八坂さんはだいじょうぶでしょうか」

看護師は雄吾をちらりと見ていった。

「お孫さんなの」

「違います」

雄吾は学生ズボンを見おろしながら、ちいさな声でいった。

「いっしょに働いている者なんですが」

「そう。患者さんは十五分くらいまえに意識を取りもどしています。すこしだけなら、顔を見にいってもかまいませんよ」

看護師は雄吾の身なりやカバンを見ているようだった。

「でも、あなたはまだ中学生よねえ。働くにはすこし早すぎるんじゃないかしら」

雄吾は看護師の質問を無視していう。

「八坂さんは、どういう病気なんですか」

看護師はしかたないという様子でうなずくと、口を開いた。

「脳血栓といって、脳の血管に血液の固まりが詰まってしまう病気。患者さんと面会したら、今日はもう帰りなさい。家の人が心配しているわよ」

雄吾はインテリア雑誌から切り抜いたような自宅マンションを思い浮かべた。七時近くまで両親は家に帰ることはないだろう。母の亜希子が十五分でつくる夕食は半分以上が冷凍食品だった。栄養はあるのかもしれないが、味も香りも漂白したように抜け落ちている。

雄吾は開いたままの扉を抜けて、救急治療室のなかにはいっていった。みっつあるベッドのうち左右両側だけが使用されていた。まんなかのベッドは無人で、きれいに白いシーツがかけられていた。患者のいるベッドは白いプラスチックのようなカーテンで目隠しされている。雄吾は源ジイが運びこまれた左手のカーテンに手をかけた。

「だいじょうぶですか」

うなり声とも、悲鳴ともきこえるような音がカーテン越しにきこえてきた。雄吾がすこしだけカーテンを開くと、③老人は枕から頭を起こして涙目で見つめ返してきた。半日まえとはまったく違う力のない視線である。老人は右手をあげて、おにぎり[※2]をくれた日のように雄吾を招いた。左腕に点滴のチューブがテープでとめられていた。源ジイは鼻にはいった管のせいで話しにくそうだった。

「すまねえな。こんなことになるとは、自分でも情けねえや。兄ちゃんがいなかったら、どうにもならんところだった」

そういうと老人は右手だけでサイドテーブルにある財布を開いた。なかからでてきたのは、なく

なった妻の写真である。裏返して雄吾に差しだした。
「ここに大阪に住んでる息子の電話番号がある。仕事でずっと関西でな。やつがくるまで、悪いが、こまごまとした用をやってくれないか」
源ジイはそれから他人でも見るように自分の左腕を眺めた。
「元気なら自分でやるんだが、身体の左半分がなんだかしびれちまって、まったく動かせねえんだ。どうなっちまったのかなあ。ぐうたらな身体だ」
老人はそういって、右手で左腕をなでながら、B目をしばたかせて笑った。雄吾はC いたたまれずにピンボケの写真を手に、公衆電話を探しに廊下へでていった。
翌日から雄吾の仕事は、廃品回収から源ジイのつきそいに変わった。電話を受けた老人のひとり息子は、仕事がいそがしくて週末まで東京にこられないといった。入院に必要な寝巻きやタオルや下着などは、病院の売店ですべて雄吾が買ってきたものだ。
入院二日目には、④雄吾の両親も老人の見舞いに顔をだしている。源ジイはふたりのまえでは、雄吾のときとは別人のように話した。
「すみませんです。息子さんが毎日公園にいるものだから、つい仕事の手伝いなんかをさせてしまって。あげくの果てにこの始末です。⑤天罰ってやつかもしれません」
真治（※3しんじ）は黙っていたが、亜希子（あきこ）が口を開いた。
「いえ。うちの子もちょっと変わっていて。八坂さんの仕事を手伝うようになってから、家でもまえより明るくなっていたんです。このごろちょっと変わったねって、夫とは話していました」
源ジイは照れたように笑ったが、真治の声は真剣だった。
「残念ですが、雄吾はまだ中学生です。アルバイトとしてつかうのも、こうして血のつながりのない八坂さんを看病するのも、どういえばいいか、適切ではないと思います。雄吾のつきそいは、息子さんがおみえになる週末まででいいでしょうか」
上半身をベッドに起こした老人は、何度もうなずいてみせた。
「わかっております。そのあとは、ちゃんと雄吾くんはお返ししますから。ご安心ください」
その場にいた雄吾は、誰も［　⑥　］のが不思議だった。十三歳というだけで、透明人間にでもなったような気がする。口のなかでつぶやいた。
「同じじゃないか」
亜希子が振り返った。雄吾が今度ははっきりといった。
「同じじゃないかっていったんだ。どうせ公園のベンチにもどるなら、この病院の廊下の長いすに座っていても同じだよ。どっちにしても学校にはいかないんだから」
そのときベッドの老人が、腹から太い声をだした。
「おい、兄ちゃん。親御さんにそんな口をきいちゃいけない」

⑦雄吾は三人の大人を交互に見てから、黙って病室をでていった。

（石田衣良　『約束』所収「夕日へと続く道」）

※1　ドップラー効果…音が近づいて来る時に高く聞こえ、遠ざかる時に低く聞こえる効果のこと。

※2　おにぎりをくれた日…雄吾と初めて会った翌日に、源ジイが自分で作ったおにぎりを雄吾に渡したことがきっかけで、二人の仲が深まった。

※3　真治…雄吾の父親。

問一　――部A～Cの意味としてもっともふさわしいものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A「怪訝な」

ア　不思議で変だと思う様子　　イ　驚いて怖がる様子

ウ　興味と好奇心が湧く様子　　エ　不安で心配する様子

B「目をしばたかせて」

ア　目を大きく見開いて　　イ　しきりにまばたきして

ウ　目を細めて凝視して　　エ　穏やかにほほ笑んで

C「いたたまれずに」

ア　自分に責任を感じて　　イ　悲しみに包まれて

ウ　その場に居づらくなって　　エ　怒りに支配されて

問二　――部①「今日はこれまでだな」の意味としてもっともふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　体の調子が悪くなってしまったし、仕事の成果も出ていないので、まだ午前中だけど仕事は終わりにしようということ。

イ　体の調子がおかしいので、自分のこの先の人生も長くはないと思い、雄吾との関係をなかったことにしようということ。

ウ　体の調子が良くないし、仕事も順調に進んでいて切りがいいので、もう午後は仕事をせずに解散しようということ。

エ　体の調子が悪いのを雄吾に知られたくないし、余計な心配をかけたくないので、仕事を終わりにして雄吾と離れようということ。

問三　――部②「生まれてから一番長い十分間」とあるが、なぜそのように感じたのか。その理由としてもっともふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　緊急事態にとまどい、パニックになってしまった自分を恥ずかしく思っていたから。
イ　意識不明の源ジイを前にして、何もできない自分の無力さに腹が立っていたから。
ウ　呼びかけに応じてくれない通行人のせいで、救急車の到着が遅れてしまったから。
エ　急に倒れてしまった源ジイの容態を心配し、救急車の到着を待ちわびていたから。

問四　――部③「老人は枕から頭を起こして涙目で見つめ返してきた」とあるが、ここでの「源ジイ」の心情としてふさわしくないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　元気だった体が、急に自分のものではないように感じて、ふがいなく思う気持ち。
イ　雄吾の両親のせいで、雄吾との関係が終わるのを恨めしく思う気持ち。
ウ　自分の病気のせいで雄吾に迷惑をかけてしまったことを、申し訳なく思う気持ち。
エ　自分では何もできなかったので、助けてくれた雄吾をありがたく思う気持ち。

問五　――部④「雄吾の両親」とあるが、「雄吾」と家族の関係が読み取れる段落をこれより前の本文中から探し、最初の五字を答えなさい。

問六　――部⑤「天罰ってやつかもしれません」とあるが、何に対してどのようなことが「天罰」なのか。三十字以上四十字以内で答えなさい。

問七　［　⑥　］にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　源ジイの体の状態をきかない　　イ　自分の意見をきかない
ウ　自分と源ジイの関係をきかない　　エ　自分の不登校の理由をきかない

問八　――部⑦「雄吾は三人の大人を交互に見てから、黙って病室をでていった」とあるが、ここでの「雄吾」についての説明としてふさわしくないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　自分と源ジイの関係を知ろうとしないで正論を突き付ける父親に対して、不満を感じている。
イ　仕事にいそしむあまり息子に冷たい態度を取る母親に対して、不信感を抱いている。
ウ　来週から源ジイの仕事を手伝えなくなっても、自分の登校状況は変わらないと思っている。
エ　自分の味方だと思っていたのに両親をかばった源ジイに対して、やるせなく思っている。

三

次の古文とその現代語訳を読み、後の問いに答えなさい。

【本文】

寛平の歌合[※1]に、初雁[※2]を、友則、

春霞　かすみていにし　雁がね[※3]の　今ぞなくなる　秋霧の上に

とよめる。左方にてありけるに、五文字を詠じたりける時、右方の人、①ことごとく笑ひけり。さて、次の句に、「かすみていにし」といひけるにこそ、音もせずなりにけれ。

ものを聞きもはてず、ひたさわぎに笑ふこと、②あるまじきことなり。また、ア<u>さやうに</u>思ひがけぬことも、よむまじきにや。また、人ありて、まことのあやまりをしたりとも、わがため苦しみのイ<u>なからむ</u>に、あながちに難じそしりても、なにかせむ。

（『十訓抄』）

【現代語訳】

寛平の歌合の時に、「初雁」という題で紀友則が、

「春霞がかすんでいる中を帰っていってしまった雁がねが、今また鳴いているよ、秋霧の上に」

という歌を詠んだのだった。友則は左方であったのだが、「[A]」という初めの五文字を詠んだ時に、右方の人は大笑いしたが、次に「かすみていにし」といったところ、静まり返ってしまったという。

ものごとを終わりまで聞かないで、大騒ぎして笑ったりすることは、あってはならないことだ。また、こんなふうに思いがけないことを詠むのも、慎しむべきなのかもしれない。また、他人に大きな誤りがあったとしても、自分にとって困ることがないのならば、むきになって非難し、責めたてても、何になろうか。無意味なことだ。

※1　歌合　…右方と左方の組に分かれて、題に沿った和歌を詠み、優劣を競う遊び。

※2　初雁　…秋に、はじめて北方から渡ってくる雁（渡り鳥）のこと。秋の季語。

※3　雁がね…「初雁」に同じ。

問一　═══部ア「さやうに」・イ「ながらむ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

問二　――部①「ことごとく笑ひけり」とあるが、「右方の人」はなぜこのようにしたのか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　友則が、あまりにもありふれたつまらない和歌を詠み始めたと思ったから。
イ　友則の詠んだ和歌が、自分たちの想像を絶するほどすばらしかったから。
ウ　友則が、まったくお題に沿っていない歌を詠んだと早とちりしたから。
エ　友則の詠んだ和歌が、最後まで聞くと意味がわかる巧みなものだったから。

問三　――部②「あるまじきこと」の内容を指す部分を【本文】の中から二十字で抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問四　空欄 A に入る語を答えなさい。

問五　【本文】の内容を説明したものとしてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　どんな作品であっても大騒ぎして笑うことはやってはいけない。
イ　物事は最後まできちんと聞いたうえで判断し、評価するべきだ。
ウ　あまり人の意表をつくようなことをするべきではない。
エ　他人の間違いを無駄に非難したり責めたりすることはよくないことだ。